

平成30年度学校自己評価システムシート (県立北本高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 基礎基本を重視し、確かな学力の育成及び体力の向上を図る。 2 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 3 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 4 地域連携事業を推進し、生徒の社会性及びコミュニケーション力を育む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	12名
	生徒	16名
	事務局(教職員)	14名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	基礎学力の定着に向け、学校全体で取り組んでいるものの、自学自習の習慣が身に付いていない生徒もいる。授業内容が理解できない生徒もいることから、学習習慣の定着に引き続き取り組み、「わかる授業」による授業改善にさらに取り組む必要がある。	教員の授業力向上と生徒の学力向上を図る。	①未来を拓く「学び」プロジェクトや、校内研修等の機会を通じて、授業公開・研究協議を実施し、授業改善を進める。 ②各学年で学校生活に関するアンケートを実施し、学習習慣の定着度を測定する。 ③自習室や質問・自習コーナーを充実させ、自学自習の態度を育成する。また、部活動単位で学習会を行う等、支援体制を整える。 ④登校指導や巡回指導により、落ち着いた授業に臨む姿勢を育て、学習習慣を確立させる。	①全県対象の授業研究会及び年次研修の研究授業等を実施し、互見による授業改善が実施できたか。 ②過年度及び7月と12月の比較で、学力向上を実感する生徒が増加しているか。 ③自習室及び質問・自習コーナーが活用されているか。 ④昨年度と比較し、欠席・遅刻・早退の数が減少しているか。	基礎学力の定着に向け学校全体で取り組み成果を上げた。 ①6月の未来を拓く「学び」プロジェクトでは、22名が来校。11月の彩の国教育週間では、地域の方の来校もあり、互見による授業力向上を図ることができた。 ②アンケートの結果、学力の定着や学力の向上を実感する生徒が昨年より3%向上し、生徒全体の60%を超えた。 ③自習コーナー利用率が昨年より7%向上し、生徒全体の約40%になった。 ④遅刻指導の結果、遅刻を繰り返す生徒が減少した。	A ・公開授業及び研究授業週間に学期1回以上設定し、さらなる教員の授業力向上と生徒の学力向上を図る。各授業の理解度を図れるよう方策を検討する。 ・昨年度と比較して、欠席、遅刻、早退の総数に変化があまり見られなかった。引き続き、立哨指導等を継続して実施し、減少に努める。
2	生徒の多様な進路希望の実現に向け、進路選択への意識を高めるとともに、個に応じた段階的な進路指導を展開する必要がある。	進路資料室の活用と進路行事の充実を図る。	①JST及び進路指導主事を中心として進路先の開拓を行う。また、JSTによる就職希望の生徒への丁寧な支援の充実に取り組む。 ②分野別ガイダンス、進路説明会等、進路行事により段階的、計画的な進路指導を展開する。 ③資格取得を奨励し、補習・学習支援を行い、取得率を向上させる。 ④進路資料室について、資料や情報を利用しやすく整理し、利用率向上につなげる。	①大学・短大・専門学校への進学及び就職希望の生徒が進路実現できたか。 ②各学年で段階的、計画的に進路行事を実施できたか。 ③過年度比較で、検定受験者、合格者及び補習等への参加者が増加したか。 ④進路資料室の資料や情報を充実できたか。また、利用率が向上したか。	生徒の多様な進路を実現するために学校全体で取り組んだ。 ①大学・短大36名、専門学校56名、就職62名であった。 ②各学年で分野別進路行事を実施した。 ③検定受験者534名、合格者200名であった。 ④進路資料室の古い資料を廃棄し、新しい資料と入れ替えることができた。	A ・検定や資格等を取ることが進路実現や将来に役立つことを生徒に指導する。 ・進路情報のポスター等を進路室等のパネルに掲示したが、効果があまり出ていなかった。教室掲示を増やす等、方法を工夫する必要がある。
3	充実した高校生活を送っている生徒が多いものの、基本的な生活習慣の確立及び社会規範の醸成に向け、さらに取り組む必要がある。また、部活動加入率が増加しているものの、7割を超えていない状況がある。学校生活をさらにメリハリのあるものにするため、部活動の充実に取り組む。	生徒指導体制を整備し、自主自律の精神と豊かな心を育む。	①生徒会が中心となり、各委員会との連携の下、行事の充実及び改善を図る。また、定期的に部長会を開催し、部活動の実情把握と課題共有・解決を図る。 ②巡回指導等を組織的・継続的にを行い、整容と規範意識の向上に取り組む。 ③教育相談委員を中心に定期的な巡回支援を実施する。また、各学年と連携した教育相談体制を整備し、個に応じた支援を行う。 ④530(ごみゼロ)プロジェクトによる地域清掃活動の実施と、各教員の指導による日常的な清掃活動を充実させ、奉仕・協働の精神を育む。	①昨年度の課題が改善された形で行事が実施されたか。部活動加入率の増加や退部者数の減少がみられたか。 ②整容指導、遅刻指導、交通安全指導、挨拶指導を実施したか。 ③教育相談委員会やいじめ防止委員会と連携して個に応じた支援を実施したか。また、巡回支援を実施したか。 ④地域清掃活動に参加する生徒が増えたか。また、日常の清掃活動をしっかり行えたか。	基本的な生活習慣の確立と自立性の醸成に力を注いだ。 ①体育委員会、文化祭実行委員会が中心となって行事運営に取り組んだ。また、部活動においてもバスケットボール部が県大会出場、陸上競技部が県大会出場、書道部が全国総合文化祭出展を決めた。 ②各学年で整容指導、遅刻指導、交通安全指導に取り組んだ。 ③教育相談委員会が中心となり、個に応じた支援を実施できた。また、巡回支援を8回実施できた。 ④530プロジェクトを年3回実施し、のべ35人が参加した。530プロジェクトだけでなく、地域のボランティア活動に部活動や有志で参加する機会が増えた。	B ・部活動加入率が近年増加傾向(58.5%)にあり、実績も伸びてきているが、今年度については部活動加入率が1.6%下がった。部活動を見直し、部活動の精査をするなどして、引き続き加入率アップに向けて取り組む。 ・整容指導、遅刻指導について、学校で統一した基準で生徒指導に取り組む。 ・530プロジェクトで、近隣の清掃に取り組んだ一方で、日常の清掃活動はよくできていない。来年度、毎日の清掃をしっかりと指導したい。
4	「生きる力を地域社会とともに育む学校」を目指し、様々な地域連携事業を行っている。しかしながら、情報発信が十分でないため、生徒募集等につながっていない現状がある。広報活動を充実させ、積極的にPRすることが喫緊の課題である。	地域・保護者との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	①KISEP(北本市小・中・高相互交流事業)による異校種間交流を行い、生徒の豊かな心を醸成する。 ②奉仕の心を育て、自己有用感の醸成を図るため、校内・校外のボランティア活動及び地域イベントへの参加を促す。 ③広報誌(Green Fields)を年5回発行し、配布する。また、ホームページを見やすくし、閲覧数を増加させる。 ④PTA・後援会活動について、PTA行事への参加者増加に取り組む。特に、学校行事での連携体制を充実させる。	①KISEP事業について計画通り実施できたか。 ②ボランティアやイベントに参加する生徒が増えたか。 ③広報誌を地域や生徒募集行事等で計画通り配布できたか。また、昨年度と比較し、ホームページの更新数・閲覧数が増加したか。 ④昨年度と比較し、PTA活動への参加者が増加したか。	地域交流に計画的に取り組む事ができた。 ①KISEP事業の一環として、小高スポーツ交流、中高スポーツ交流、中学校への出前授業を計画通り実施した。 ②さくら祭り、北本市の街づくりワークショップ、北本祭りねぶた山車等、有志で参加した。また、高大連携事業による食育講座を実施し、充実した講座となった。 ③広報誌を年5回発行し、生徒募集の行事に活用できた。体験入学(8月)学校説明会(10・11月)入試相談会(12・2月)を実施した。 ④埼玉県高等学校PTA連合会の、家庭教育部会で取組を発表した。	A ・市内中学校との調整をしたものの、出前授業を実施できない中学校があった。来年度は早い時期から実施日の調整を行いたい。 ・ホームページの閲覧数の集計を実施したい。 ・引き続き地域連携事業を充実させる。また、生徒のニーズに合わせ、高大連携事業を充実させる。 ・生徒募集の行事に参加する中学生が増加した。引き続き学校の特色をPRし、参加者の増加に努める。

学校関係者評価
実施日 平成31年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実感だけではなく、客観的に学力の伸びを測るものが必要である。何をもってそう感じたのかが曖昧である。 ・アンケート結果では、予習や復習等、勉強にしっかりと取り組めば学力が向上すると答えている生徒が多い一方で、学習時間が少ない生徒も多い。きちんと学習習慣を身につけられるような指導をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の能力や特性を見つけ、それを伸ばしていけるような環境を整える必要がある。キャリア教育を充実させ、1年から3年まで連続性を持った進路指導を期待したい。 ・生徒の学力や適性をきちんとした全国指標で測り、進路実現のためにどれくらい頑張ればよいか、また、何を伸ばせばよいか等を進路面談ですべての担任が指導できる体制を整える必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入者が多く、活動している姿があれば、学校が活性化するものである。加入率向上に向けて取り組んで欲しい。 ・卒業した後も学校に誇りを持ち、学校のことを考えていける人を育てるのも大事なことである。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携するのは良いことである。引き続き取り組んで欲しい。特に、市政を考える会合に出席し、若者の視点から意見を述べることは、市政に若い世代の意見を反映する良い機会である。 ・保護者が学校の取組について関心を持ち、理解することが必要である。子育ては、学校、地域、保護者が一体となって行うものである。『基本的な生活習慣は家庭で育むもの』というような啓発をPTAが担えれば良いと考える。